

校長先生の初恋物語

第58話 6年2組ミッタの仲間が悔しかった日

ジャイアンは相変わらずだったけど、6年2組は平和な日々が続いていました。いやだなあって思うことは、今度はアマーラさんがまたいつかなくなってしまうってことが分かっていることだけです。お茶の時期が終わる頃に、またアマーラさんは鹿児島にもどっています。それは、一学期が終わる、夏休みの前ってことでした。アマーラさんと一緒にいられるこの4ヶ月を、とにかく楽しくすごそうとみんな思っていました。だからでしょうか。ジャイアンも少しは暴れることをひかえているように感じました。時々けんかもするけれど、友達をなぐることもなくなっていました。そんなミッタのクラスに、悔しい出来事がありました。



マンモス小学校には、月に一度、リレー大会がありました。クラス全員が必ず走るリレーです。とっくんのクラスは、このリレー大会が嫌いでした。理由は簡単。とっくんのクラスは5年生の時からずっとビリをとり続けていたからです。とっくんもリレー大会がだいきらい。走るのが苦手で、みんなにめいわくをかけていることが分かっているからです。ビリになってしまう原因の一つは、まちががなく、足が遅いとっくんです。

とっくんの学年は、3クラスありました。つまり、ミッタクラスはいつも3位。つまりビリ。学校一のスポーツマン、足長君ときんに君がいるというのにいつもビリ。いつ



も他のクラスから大きくはなされてのドンビリ。とにかく、毎回、ひどいビリ。

6年生になっての4月のリレー大会もビリで、1組や2組の人達から、ばかにされてしまったんです。

「まったくおまえたちのクラスは6年生になってからもビリだな。」

みんなショックを受けました。6年生になったら少しは勝てるかと希望を持っていたのにビリは変わらなかったからです。5月のリレーもやっぱりビリでした。それも、今まで経験したこともないくらいひどい負け方でした。

5月のリレーは最初から「どうせ無理。」というふんいきがありました。それは、きのこ君がいるからです。きのこ君は体に筋肉がないのかって思ってしまうくらい、がりがりにやせています。走ることがびっくりするくらいおそいんです。きのこ君にバトンがわたると、いつも何もかも終わりって感じ。どんなにいい勝負をしていても、きのこ君にバトンがわたったしゅんかん、2組の負けは決まるんです。きのこ君のことはみんなよく分かっているし、きのこ君が一番苦しいということも分かっているし、だれもきのこ君をせめたりはしません。



でも、5月のリレーのとんでもない結果に、きのこ君がこんなことを言い出してしまいました。それは、きのこ君の悲しい心のさけびでした。

次回予告

このクラスにぼくがいなかったら

